

会 議 録

会議の名称		史跡平沢官衙遺跡再整備懇話会（第1回）		
開催日時		令和5年(2023年)9月25日 開会10:00 閉会11:50		
開催場所		つくば市役所本庁舎会議室101		
事務局(担当課)		教育局文化財課		
出席者	委員	田中裕（※Zoomより参加） 三谷芳幸・海野聡・柳原茂男		
	その他	栗原悠（茨城県教育庁文化課）		
	事務局	石橋文化財課長、広瀬同課係長、久保田同主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 実物大復元建物実施設計について(資料1) (2) 令和5年度再整備事業について(資料2) (3) 令和6年度以降の再整備事業(資料3) (4) 平沢官衙遺跡WSについて(資料4)		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議事 4 その他 5 閉会			

3 議事

(1・2) 実物大復元建物実施設計について・令和5年度再整備事業について
事務局(広瀬)：資料に基づき説明。

座長(田中)：大きな変更点として、ヒバから杉へ、というのは既に今年1月の段階で伺っていました。また、土倉の工事で応札者がいなかったということですが、随意契約でも、予算的にはもう収まって契約できたということでしょうか。

事務局(広瀬)：はい。入札で応札者がいなかったために随意契約に切り換えたので、設計額は変えずに見積合せを実施するという形になり、当初の設計額内に収まりました。

座長(田中)：御意見、御質問をお願いします。

座員(海野)：国庫補助金の50%減額はなかなか厳しい判断だったと思いますが、当初の4ヶ年計画を延長して、薄く長く実施する、ということではなく、期間の終わりは変えずに進めるということでしょうか。

事務局(石橋)：はい。次の議題以降も関わるのでまた御説明いたしますが、大きく言えば、4年で終わるように、来年度の事業内容を増やして先延ばしはしないように、補助事業だけでなく起債事業も検討して調整しています。

座員(海野)：ありがとうございます。往々にして整備事業は近年大体どこも減額が著しい影響で、薄く伸ばして実施する、というところが増えていきます。その辺りは戦略的に来年・再来年である程度片をつけてほしいです。特に、平沢官衙遺跡の場合は再整備事業なので、時間が経過するとその分だけ建物にも影響が増えるため、期間を縮められるところはなるべく縮めていただきたいと思います。

もう1点、茅の葺替えも減額の影響で全面葺替えが1度にできないとのことですが、結局途中まで葺いた状態の段階で、養生はどの程度を想定すると、

業者さんと打合わせをしていますか。

事務局（広瀬）： 覆屋を仮設して上を覆う、といったことは検討しておりません。シートで途中まで覆ってもらうといった、そういったところまでしか確認していない状況です。

座員（海野）： 来年度の事業がいつ開始になるかで、長いと半年から1年近く期間が空いてしまうことがあります。ブルーシート等で覆いをかけて仮設する、ということはあると思いますが、その場合は茅がだいぶ蒸されてしまうため、影響の有無もぜひ確認してください。

事務局（広瀬）： 今年度の対象範囲は仕上げてしまうという形になりますので、工事が終わったら仮設は全て取ってしまう予定です。工事の途中は覆い屋などはないため、適宜ブルーシートなりで養生しながら進める形になると思います。

座員（海野）： 分かりました。おそらく、古い茅と新しい茅の継ぎ目の箇所が一番影響が出てくるでしょうから、状況によってはもう1回重複してやり直すなりしないといけない可能性も、想定しておいてもらったほうがよいと思います。

座長（田中）： ありがとうございます。他にございますか。

県文化課（栗原）： 今年度事業が入札の関係で、当初の想定より減額というお話がありましたが、執行状況はいかがですか。特に国庫補助事業ですので、事業等が変更となる場合は、計画を見直しするなど有効な活用をお願いします。

事務局（広瀬）： 工事の差金はほとんど出ませんでした。材木購入では100万円以上の差金が出ております。その差金を使って、これから施工監理委託と鉄柵の改修工事の契約を考えております。それでも一部余る部分が出そうなので、その場合には業者と相談して、工事の変更をすれば対応できるかと思っております。

事務局（石橋）： 茅葺きも、今の計画では西面の範囲を隅棟と平行に終えているのを、軒と垂直になるように広げるとか、そのぐらいの変更になると思います。

県文化課（栗原）： 面積単位で単価があるのかはわかりませんが、茅職人さんとしてはそのような対応は可能ということですか。それでしたら、構いません。

事務局（石橋）： 技術的には不可能ではないと思います。積算に関しては再度設計をして、金額とのバランスで調整していきたいと思います。

県文化課（栗原）： 50%減の上、さらに減額変更となりますと、次年度以降の計画を進めていく上で支障になると思いますので、ぜひもらったお金はなるべく使っていただくようお願いします。

座長（田中）： 茅工事の範囲を広げた時に、長持ちするかの影響が出にくいように分ける適切なところは、あるのでしょうか。

座員（海野）： おそらくそれを判断して、隅のところが一番影響がありますので、隅をまわりこんだところまでとしたのは、ある意味では苦しいながらもそこまでというところでおさめたのではないかと思います。その点では多分増額した分でも、各面全部を葺けることはないでしょう。そういった意味で次の隅までいかなければ、状況はそこまで大きくは変わらないのではないかなと思います。職人さんはよくご存知でしょうから、よく相談しながら進めていただきたいです。

座長（田中）： ほかに意見はございますか。なければ、令和6年度についてお願いします。

（3）令和6年度以降の再整備事業について

事務局（広瀬）： 資料に基づき説明。

座長（田中）： ただいまの令和6年度以降の事業の説明につきまして、ご意

見、ご質問をお願いいたします。

座員（海野）： 先ほども確認しましたが、起債事業を見込んだとしてもやはりこれまでの補助金の減額が大きいですけど、大丈夫そうですか。計画変更を余儀なくされる部分はかなり多いと思います。最近の史跡整備においては、ある程度大きな計画から現実的な計画へ、という変更が多いかと思っておりますので、その辺りの見通しがありましたら、お願いします。

事務局（石橋）： 現在、補助事業の市負担分に充当する起債以外に、補助事業と区分された別事業として、地方債を入れた事業ができるよう調整しています。それですと金額にある程度弾力性があるような話も聞くので、例えば補助が少なくなってしまった場合にも、起債分を少し大きくして調整できるのではないかと思います。どのくらい、いつまで融通が利くかは調べないとわかりませんが、程度調整はできるということでした。物価高などの影響で総額が上がってしまったら、お金をそれだけかけるかというような話が出てきってしまうかもしれませんが、現時点では、来年度に関しては、この内容をフルでやれるように検討しています。

座員（海野）： ありがとうございます。再整備事業なので途中でやめてしまうことが、一番どうしようもありません。ある意味最初の史跡整備であれば、本来でしたらあるはずの「引き返す」という選択肢がないので、少し慎重かつ、計画的に進めていただきたいです。もう一点、今の話と少し関連しますが、木材をいくつか杉に変更しています。今後も材料の変更が出てくると思いますが、例えば近年、国の方でも進めようとしている杉の伐採みたいな話と絡んで、間伐材等で使えるようなものが、提供いただけるかどうかなどそういった手筈というか、コンタクトというのは、県や市のほうでも取っていらっしゃるでしょうか。他のところでもなんですけども、今後60年生ぐらいの杉が多く切られて、それが売られる可能性もちろんありますけれど、公共事業で使えるのであれば、何か活用できればと思います。県の方でもし

何か情報があれば、共有していただければと思いますが。

事務局（石橋）： そういった材料があつて、それが有利であれば、ぜひ使いた
いですが、あとは補助事業との齟齬が生じないか、契約の仕方ですとか、そ
ういう点も出てくるかと思うので材木は出てみないと分からないものではな
か。どのくらいの量をどこで売っているとかは、あらかじめ情報があつて、
それに対応する契約の準備などができれば、ぜひ使いたいとは思いますが。
以上です。

県文化課（栗原）： 大きさや材質などの問題があると思うので、提供される見
込みがあるか否かを前提で調べないといけないと思います。今回の整備事業
で使用に適した間伐材で存在するのかが何ともわからないので、もし
やるのであれば制度的なところも含めて確認しながら、御相談ください。

座長（田中）： そうですね、よろしく申し上げます。ちなみに文化庁の補助金
について、県の見通しはいかがでしょうか。

県文化課（栗原）： 見通しとしては良くないと思います。

座長（田中）： 現実に合わせて方策が必要ですね。大変ですけどもよろしく
申し上げます。

座員（海野）： 先ほど見学会の話が出ました。懇話会の見学会もちろん大切で
すが、可能であれば何らかの一般公開というか、特に地域の方に公開する場
を簡単にでも設けられると、非常に親しんでもらえるかなと思います。手間
は増えると思いますが、ぜひ御検討お願いします。

座長（田中）： いかがでしょうか。

事務局（石橋）： 案として考えているのは、現在、原材料として買ってきただ
けの茅を保管していますが、それをもう一段階、こしらえる段階があり、そ
こでは結構な人手が必要です。工事費の中でも見込んではいませんが、そうい
う部分は、ワークショップやボランティアといった形で、市民参加を呼びか
けたいと思っています。本当は実際の作業風景を現地で見させていただくのが一

番よいですが、足場の上に子どもが乗っても大丈夫か、といった安全性を考えると、公開できたとしても、幅広くというよりは地元の大人向けになってしまうかと思います。しかし業者も決まりましたので、何ができるかは打ち合わせていきたいです。

座長（田中）： せっかくの機会です、ぜひなるべく公開の機会を増やしてください。他にございますか。柱表示のデザインや色は、また御連絡いただけますか。

事務局（広瀬）： 次回の懇話会で先生方にも現地で工事状況を見ていただくとともに、せっかく現地に行きますので、柱表示の高さを変えるとどういった雰囲気になるのかを、ダンボールで作った模型を立てながら話ができればと思います。

座長（田中）： 分かりました。不透明なところが大きい中での、現時点での計画かつ、4か年計画を堅持しながら実施するということでご説明いただきました。続きまして平沢官衙遺跡ワークショップについてお願いします。

（4）平沢官衙遺跡 WS について

事務局（久保田）： 資料に基づき説明。

事務局（石橋）： 補足です。柱表示の模型を並べたときに、主柱は太くて、周りはずいぶん細いのか、という質問が出ました。主柱と壁外柱列で差をつけました、と説明すると「そうだったのか」、復元建物も周りに短く立っているコンクリートもそうだったのか、とおっしゃっていました。表示することで気づききっかけになる一方、その説明が足りないのが現状ですし、実際そういった意見もありました。また、柱の大きさに大小と太さ細さをつけてしまうと大きい方、太い方に価値があって、小さい方、低い方は価値がなく見えるのではないかとの声もありました。これはⅡ期とⅢ期を高さで仮に段ボールで表示して見た結果です。ただ、どういうのが正解というのものない話なので、

色々な意見がある中で、何を汲み取っていくかということになるかとは思いますが。一方で、カラーの柱を作ったりもしましたが、学校の授業ですとか、何かイベントの時に工作して、それぞれ柱にかぶせていくというイベントも、今後あってもよいかと思いました。カラフルに整備するということはありませんが、イベント的にこういう試みができる面白い、という意見もありました。

座員（海野）： 非常によい取り組みだと思います。さらに言うと、やはりこの再整備の機会を使って、ソフト面のところもぜひ組み合わせていっていただきたいです。学校教育との組み合わせは色々なところでやられていますが、やはり見学して解説を聞いて、という遠足程度のところで終わってしまうことも多いと思います。ですので、柱のところに巻きつけて実際に作ってみるという取り組みは、面白いでしょう。数日前、愛知県豊川市の三河国分尼寺のイベントに行きましたが、学校で灯籠に絵を描いて、現地で持って行って、夜に火をともし、というイベントに、2～300人が集まったそうです。演奏や地元の小中学生のプレゼンテーションの場でも使っていましたけれども、実際自分が作ったものがそういったイベントで使われて、小学生がそれを見るために保護者や友人と一緒に史跡を訪れて、みんなが集まってくる、するとそのぐらいの人数になります。そういった史跡活用のパターンとして、再整備の機会を活用してもらいたいです。

事務局（久保田）： はい。平沢官衙遺跡でも、夏休みに「万灯まつり」を実施しております。地元の筑波幼稚園や秀峰筑波義務教育学校の園児、生徒のみなさんが、絵を描いた万灯を朝からひろばの園路沿いに並べているので、保護者の方々と朝から来てくれておりました。あと、その時にお祭りで太鼓や歌などの演奏ステージイベントもやりました。

座員（柳原）： 公称で700人来たという実績があります。

事務局（久保田）： その日は朝から「つくばちびっ子博士」のイベントとして、

復元建物の扉を開けていました。そのとき初めて来たという方々も結構いらっしやったので、引き続き周知のためにそういったイベントができればと思います。

座長（田中）： では、特になければこれで議事を終了いたします。進行を事務局にお返しします。ありがとうございます。

事務局（広瀬）： どうもありがとうございました。今回いただきました意見をもとに、今後の事業をすすめていきたいと思います。

（閉会 11：50）

史跡平沢官衙遺跡再整備懇話会 令和5年度第1回会議
次第

日時：令和5年（2023年）9月25日（月）午後3時00分～

会場：つくば市役所 101 会議室

1 開会

2 挨拶

3 議事

（1）実物大復元建物実施設計について（資料1）

（2）令和5年度再整備事業について（資料2）

（3）令和6年度以降の再整備事業（資料3）

（4）平沢官衙遺跡 WS について（資料4）

4 その他

5 閉会

史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物実施設計について

実施設計作成の最終段階で座員からあった意見については、以下のとおり検討して設計を取りまとめた。

- 1 避雷針の導線について、屋根からフェンス付近のアースまで空中を通すことしているが、風などの影響も受けることや、やや目立つことから、校木端部を添わせてはどうか。
 - ・ 見積をした業者に相談したところ、導線を保護する黄銅管を曲げて現地に合わせる見積を出すことはできるが、実際には実施できる職人がおらず、対応できない。
 - ・ 地表のコンクリート面では管を埋設せずに管を露出して面上を這わせることになるため、見学者がつかずく危険がある。→ 当初案のままとした。
- 2 管の色を暗色系の目立たないものにした方がいいのでは。
 - ・ 黄銅は当初は金色だが、次第に落ち着いた色になる。→ 当初案のままとした。
- 3 防腐剤について、これまでの経年変化の状況を踏まえて、防虫性は考慮しなくてよいか、別途対策をとるのか。
 - ・ これまでの状況では虫害は確認されていない。直接に防虫効果はないが、防腐をすることにより、虫も繁殖しにくい環境ができるものと考えられる。
 - ・ 束柱などは子どもたちが手で触れる可能性が高く、より安全性の高いものを選択する必要がある。→ 当初案のままとした。

令和 5 年度 史跡平沢官衙遺跡再整備事業

1 基本計画・基本設計での当初予定（市予算）

史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物土倉（2号建物）再整備工事	設計額 43,252,000 円
史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物板倉（3号建物）材木購入	設計額 15,983,000 円
史跡平沢官衙遺跡鉄柵改修工事	設計額 212,300 円

2 今年度事業内容

- ・国庫補助金が要望から 50%減額され、補助対象経費は 32,026 千円。市財政課と協議した結果、市単費での事業実施はできない。
- ・補助対象経費を基に、当初計画した 4 か年で事業を完了させるため、来年度実施予定の校倉（1号建物）再整備工事に最低限必要な木材を調達すること、土倉（2号建物）の茅葺替工事を区切りが良いところまで実施することで調整した。
- ・来年度以降の工事の順序等が申請時（2月）から変更になったため、材料購入は校倉（1号建物）に変更。また、材料も青森ヒバからスギへ変更（資料 2 - 2）。

・実施予定工事等

史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物土倉（2号建物）再整備工事	設計額 19,228,000 円
史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物校倉（1号建物）材木購入	設計額 11,410,740 円
史跡平沢官衙遺跡鉄柵改修工事	
上記建物工事の施工管理	

3 実物大復元建物土倉（2号建物）再整備工事

- ・6月下旬から入札手続きを行い8月30日開札予定だったが、応札者がなく、随意契約で見積合せを実施、9月28日契約予定。
- ・工事内容は、茅葺屋根葺替工事 137 m²。必要な足場、敷鉄板等の仮設（資料 2 - 3）。

4 実物大復元建物校倉（1号建物）材木購入

- ・7月上旬から入札手続きを行い、9月8日に開札を実施。9月25日契約予定。
- ・内容は、隅樋棟（長さ9,500 mm）4本、屋根板（長さ7,000 mm）26枚ほかの材木を購入して保管。別契約にて来年度工事まで保管する予定（資料 2 - 4）。

5 史跡平沢官衙遺跡鉄柵改修工事

- ・本格的な工事で車両が入る前に実施予定。
- ・工事内容は、鉄柵を脱着可能にし、大型車両を柵内に出入できるようにする。

平沢官衙遺跡再整備事業計画の変更について

※文化庁説明資料

- 1 変更内容
- ・実物大復元建物のうち校倉の屋根材の樹種及び等級を、再整備実施設計の屋根板材はヒバ「無節」、ほかはヒバ「特等」から、屋根板材はスギ「上小無地」、ほかはスギ「特等」へ変更する。
 - ・現在校倉屋根で使用している大型の部材のうち傷みが少ないものを、解体後に再加工して板倉屋根のクレ板材として転用する。また、これにより工事の順序を土倉、校倉、板倉の順に変更する。

2. 変更検討の経緯

平沢官衙遺跡再整備事業では、令和3年度の基本設計をもとに、令和4年度に復元建物の実施設計を作成した。基本・実施設計では、校倉屋根材を平成13年度の当初整備時と同様のヒバとし、新たに耐久性向上のためモックル材を含侵させることとした。

ヒバの等級は、平成13年度までの当初整備時の実施設計を参考に、基本設計では「特等」とし、実施設計でも「特等」を念頭に作成を始めた。しかし、屋根板材の節が雨漏りの原因になるため、「特等」以上となる「無節」を指定する必要性が生じ、再整備実施設計において変更した。なお、現在まで使用されている当初整備時の屋根板材を調査したところ「無節」に相当する品質のものであり、当時施工業者が仕様以上の品質の材料を確保したものである。

再整備実施設計で校倉屋根板材の仕様をヒバの「無節」に改めた結果、入手が「特等」以上に困難となること、全般的な物価高だけでない大幅な費用の増額（下表参照）が必要となることが問題となり、木材の変更及び部材の転用によるコスト縮減も検討するに至った。

基本設計額と実施設計時の額との比較

(単位：円)

	基本設計額(①)	実施設計額 + 設計外 とした茅材料費(②)	増減(② - ①)
B1校倉	58,773,000	89,463,000	30,690,000
B2土倉	43,252,000	52,796,800	9,544,800
B3板倉	52,745,000	60,599,000	7,854,000
合計	154,770,000	202,858,800	48,088,800

→ヒバ材等級の変更
による大幅増

3 スギへの変更理由

- ・再整備工事で屋根材に含侵させるモックル液は、ヒバよりスギの方が含侵しやすく、耐久性への効果がより大きいと想定されるため。
- ・ヒバと比べて流通量が多いスギは、「上小無地」であれば大型部材でも調達の見通しが立てやすいため。
- ・木の性質上、乾燥による歪みがヒバよりも小さく、乾燥期間を短く見積もれるため。
- ・屋根材をスギ材の「上小無地」へ変更した場合の校倉の工事費は 66,451,000 円（見込）となり、実施設計額より約 23,012,000 円削減できるため。

4 部材転用の理由

- ・解体した大型部材のうち傷みが及んでいない部分を、小型のクレ板材として再加工することで、流通量が限られるヒバ材の確保を容易にするため。
- ・高額なヒバ材の購入量を減らすことで、工事のコストを材料費で約 375 万円縮減することができるため。

5 史跡平沢官衙遺跡再整備懇話会構成員の意見

屋根材の変更について、建築を専門とする海野構成員からは、ヒバも調査成果等を根拠に古代に使用されていたから選定されたものではなく、日本各地で得られるスギを使用するのであれば問題はないであろう、との見解を得ている。屋根材の転用を含めて、ほかの構成員からも了承を得ている。

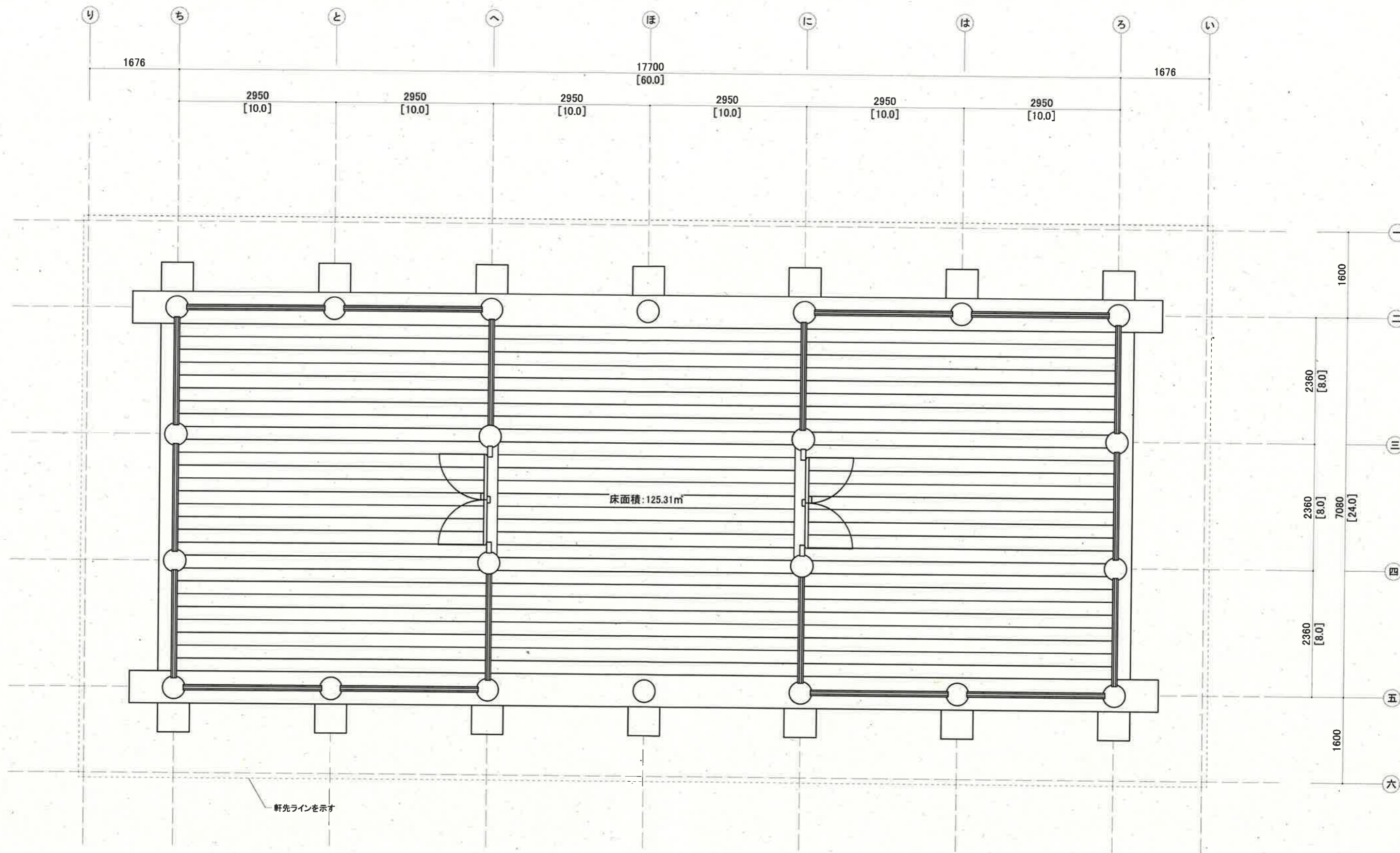
5 国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物 土倉（2号建物）再整備工事

設計図

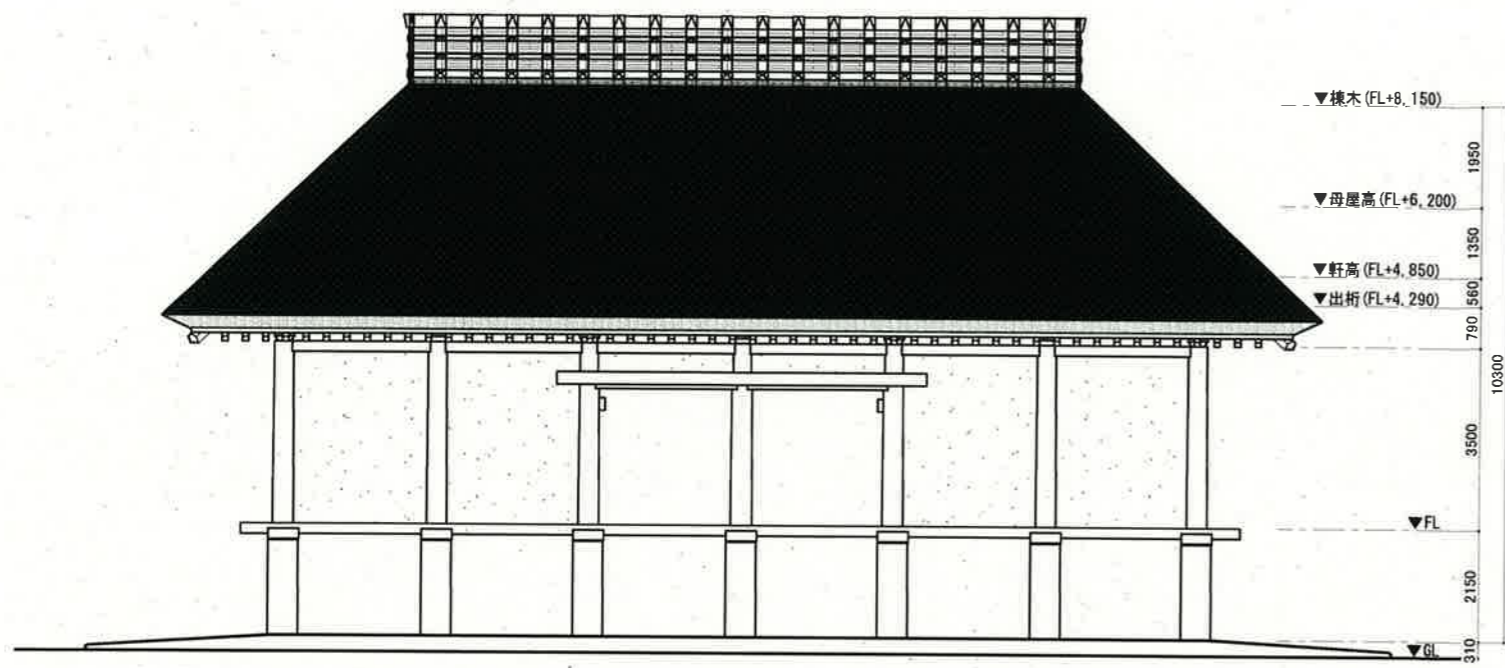
目次

図面No.	整理番号	建物名	図面種類	図面名称
01	共	共通	実施設計図面	全体配置図
02	共	共通	実施設計図面	全体南側立面図
03	B1	校倉	実施設計図面	平面図
04	B1	校倉	実施設計図面	立面図
05	B1	校倉	実施設計図面	仮設一般鉄板・足場配置図
06	B1	校倉	実施設計図面	仮設一足場平面図
07	B1	校倉	実施設計図面	仮設一足場立面図
08	B1	校倉	実施設計図面	屋根替一モックル処理範囲
09	B1	校倉	実施設計図面	屋根替一詳細図1
10	B1	校倉	実施設計図面	屋根替一詳細図2
11	B1	校倉	実施設計図面	木部樹脂補修詳細図
12	B1	校倉	実施設計図面	小屋裏ボルト緩み位置案内図
13	B1	校倉	実施設計図面	水洗い・防霉剤塗布案内図
14	B1	校倉	実施設計図面	害虫駆除案内図
15	B1	校倉	実施設計図面	棟上導体更新1
16	B1	校倉	実施設計図面	棟上導体更新2
17	B2	土倉	実施設計図面	平面図
18	B2	土倉	実施設計図面	立面図
19	B2	土倉	実施設計図面	仮設一般鉄板・足場配置図
20	B2	土倉	実施設計図面	仮設一足場平面図
21	B2	土倉	実施設計図面	仮設一足場立面図1
22	B2	土倉	実施設計図面	仮設一足場立面図2・断面図
23	B2	土倉	実施設計図面	屋根替一範囲
24	B2	土倉	実施設計図面	屋根替一棟(ぐし)詳細図
25	B2	土倉	実施設計図面	屋根替一防鳥ネット詳細図
26	B2	土倉	実施設計図面	小屋裏ボルト緩み位置案内図
27	B2	土倉	実施設計図面	扉補修案内図
28	B2	土倉	実施設計図面	水洗い・防霉剤塗布案内図
29	B2	土倉	実施設計図面	壁下シーリング案内図
30	B2	土倉	実施設計図面	害虫駆除案内図
31	B2	土倉	実施設計図面	棟上導体更新1
32	B2	土倉	実施設計図面	棟上導体更新2
33	B3	板倉	実施設計図面	平面図
34	B3	板倉	実施設計図面	立面図
35	B3	板倉	実施設計図面	仮設一般鉄板・足場配置図
36	B3	板倉	実施設計図面	仮設一足場平面図
37	B3	板倉	実施設計図面	仮設一足場立面図1
38	B3	板倉	実施設計図面	仮設一足場立面図2
39	B3	板倉	実施設計図面	屋根替一モックル処理範囲
40	B3	板倉	実施設計図面	屋根替一詳細図1
41	B3	板倉	実施設計図面	屋根替一詳細図2
42	B3	板倉	実施設計図面	板材の再利用計画図
43	B3	板倉	実施設計図面	木部樹脂補修一腐朽部補修案内図
44	B3	板倉	実施設計図面	外壁隙間埋木案内図
45	B3	板倉	実施設計図面	ボルト緩み位置・込み栓欠落位置案内図
46	B3	板倉	実施設計図面	扉補修案内図
47	B3	板倉	実施設計図面	水洗い・防霉剤塗布案内図
48	B3	板倉	実施設計図面	害虫駆除案内図
49	B3	板倉	実施設計図面	棟上導体更新1
50	B3	板倉	実施設計図面	棟上導体更新2

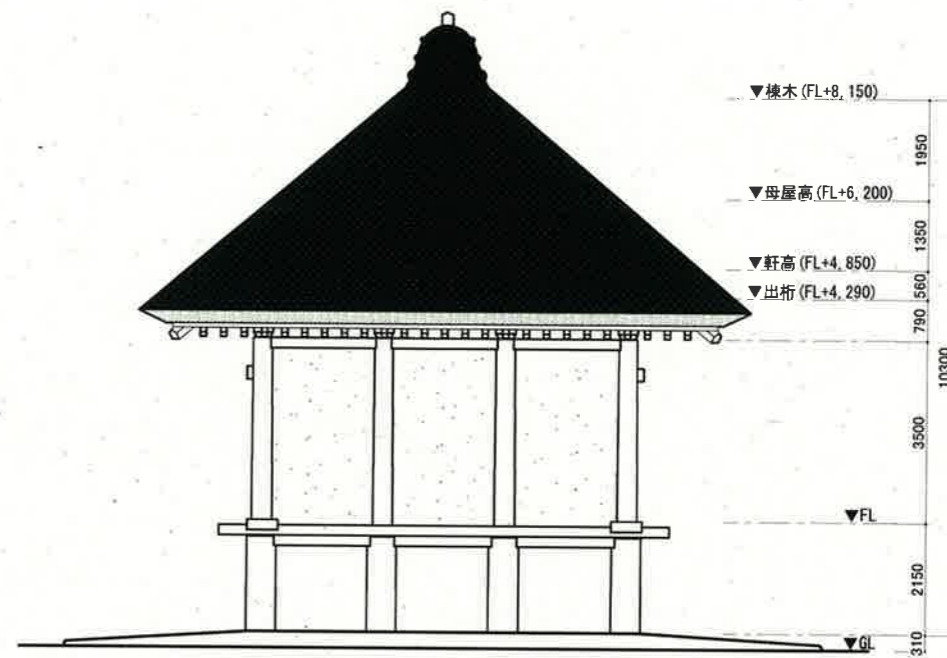
※白ヌキ部(図面No.17~25)本工事(令和5年度)の範囲



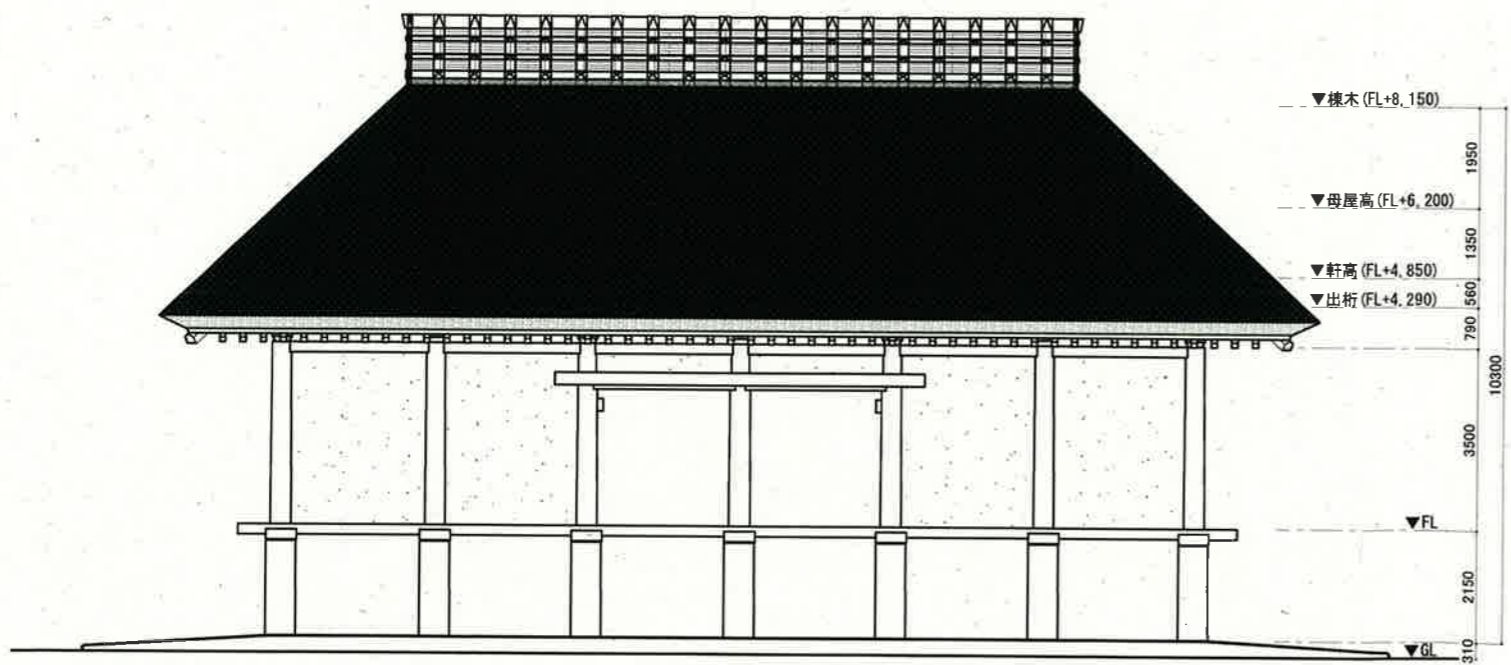
工事名	整理番号/建物名	図面名	【実施設計】	単位	縮尺	年月日	番号
5 国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物 土倉 (2号建物) 再整備工事	【B2/土倉】	平面図		mm	1/50 (A2)	2023/03/20.	17



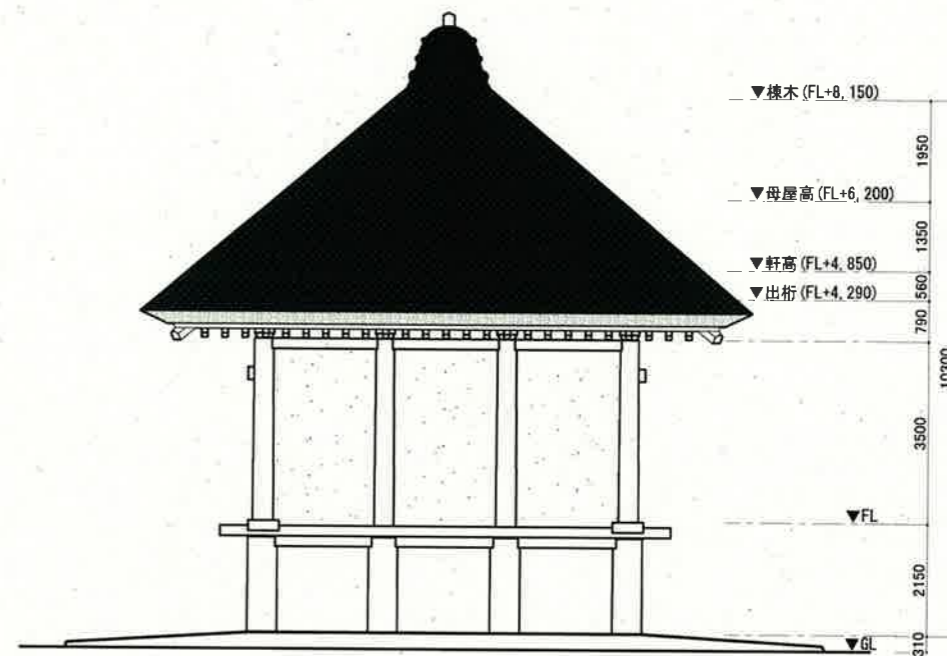
南侧立面图



东侧立面图



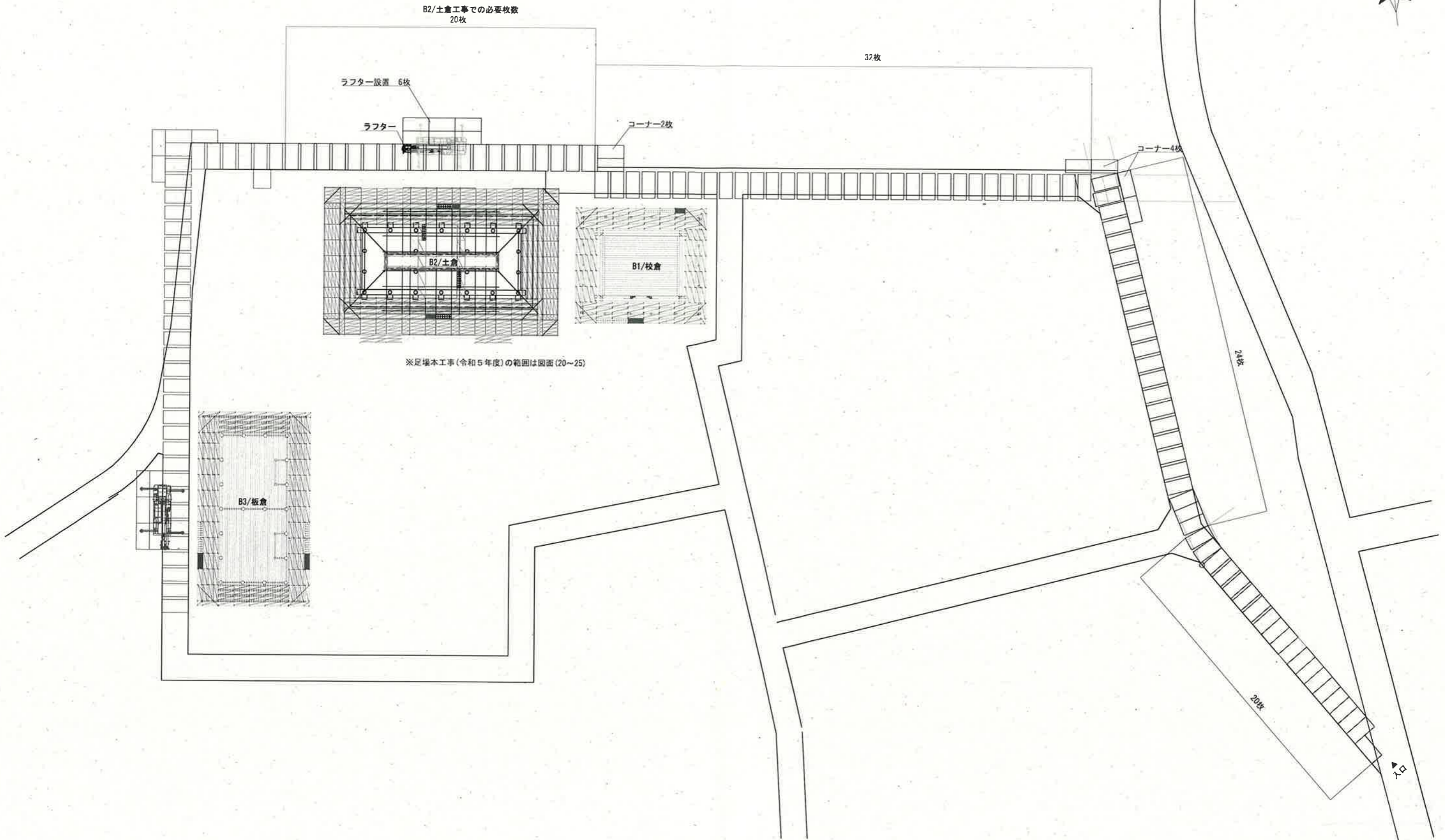
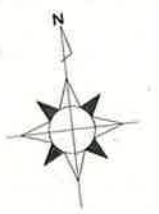
北侧立面图



西侧立面图

工事名	整理番号/建物名	図面名	[実施設計]	単位	縮尺	年月日	番号
5 国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物 土倉 (2号建物) 再整備工事	【B2/土倉】	立面图		mm	1/100 (A2)	2023/03/20	18

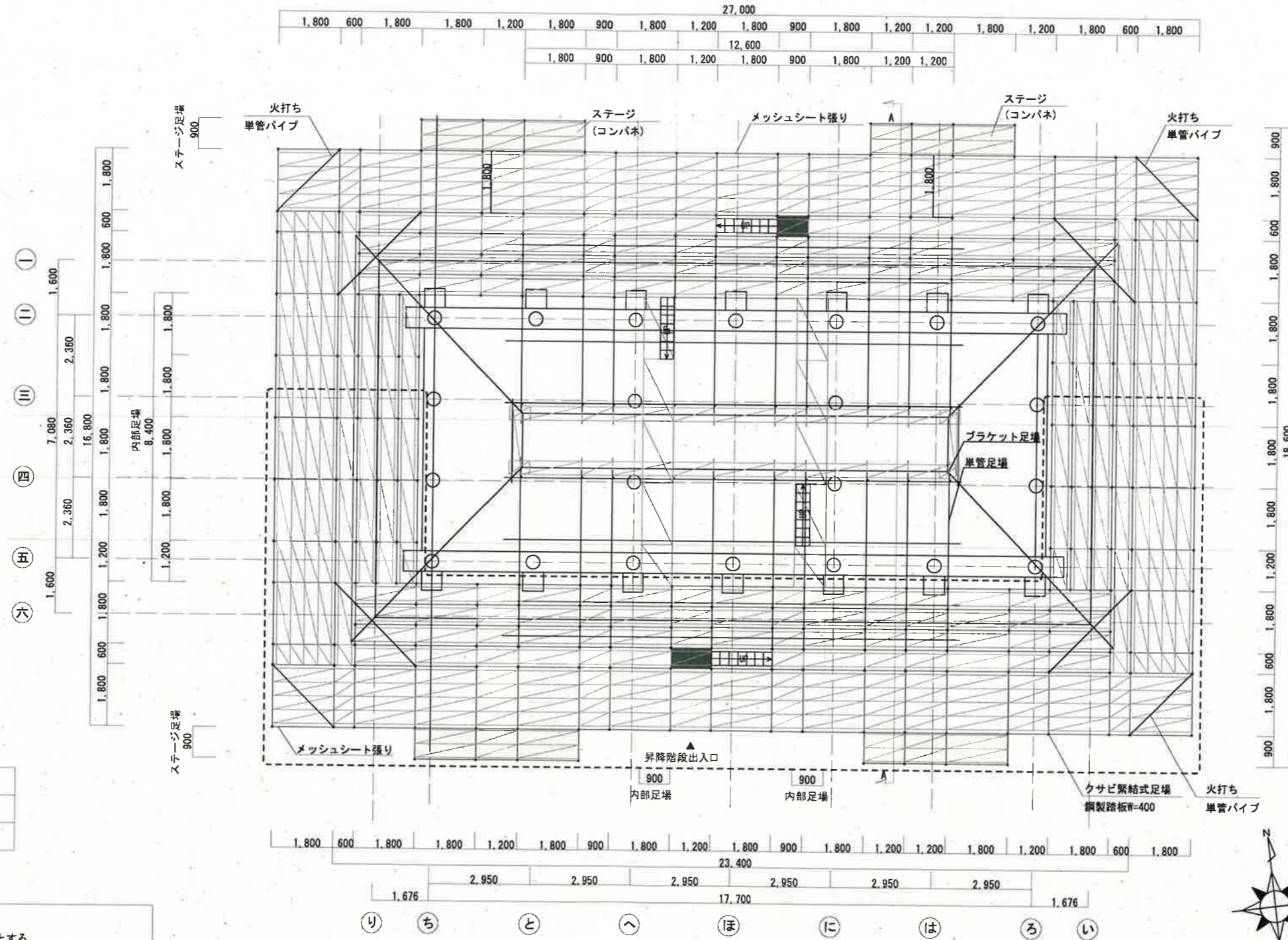
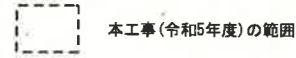
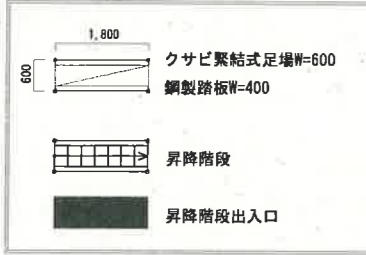
凡例



種別	場所	仕様	数量	単位
仮設	園路	敷鉄板 1524×3048 t22	108	枚

工事名	整理番号/建物名	図面名	【実施設計】	単位	縮尺	年月日	番号
5国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物 土倉(2号建物)再整備工事	【B2/土倉】	仮設-敷鉄板・足場配置図		mm	1/300 (A2)	2023/03/20	19

凡例



足場種類	最大積載荷重
クサビ緊結式足場 (W=600~1200)	200kg
クサビ緊結式足場 (W=400)	125kg

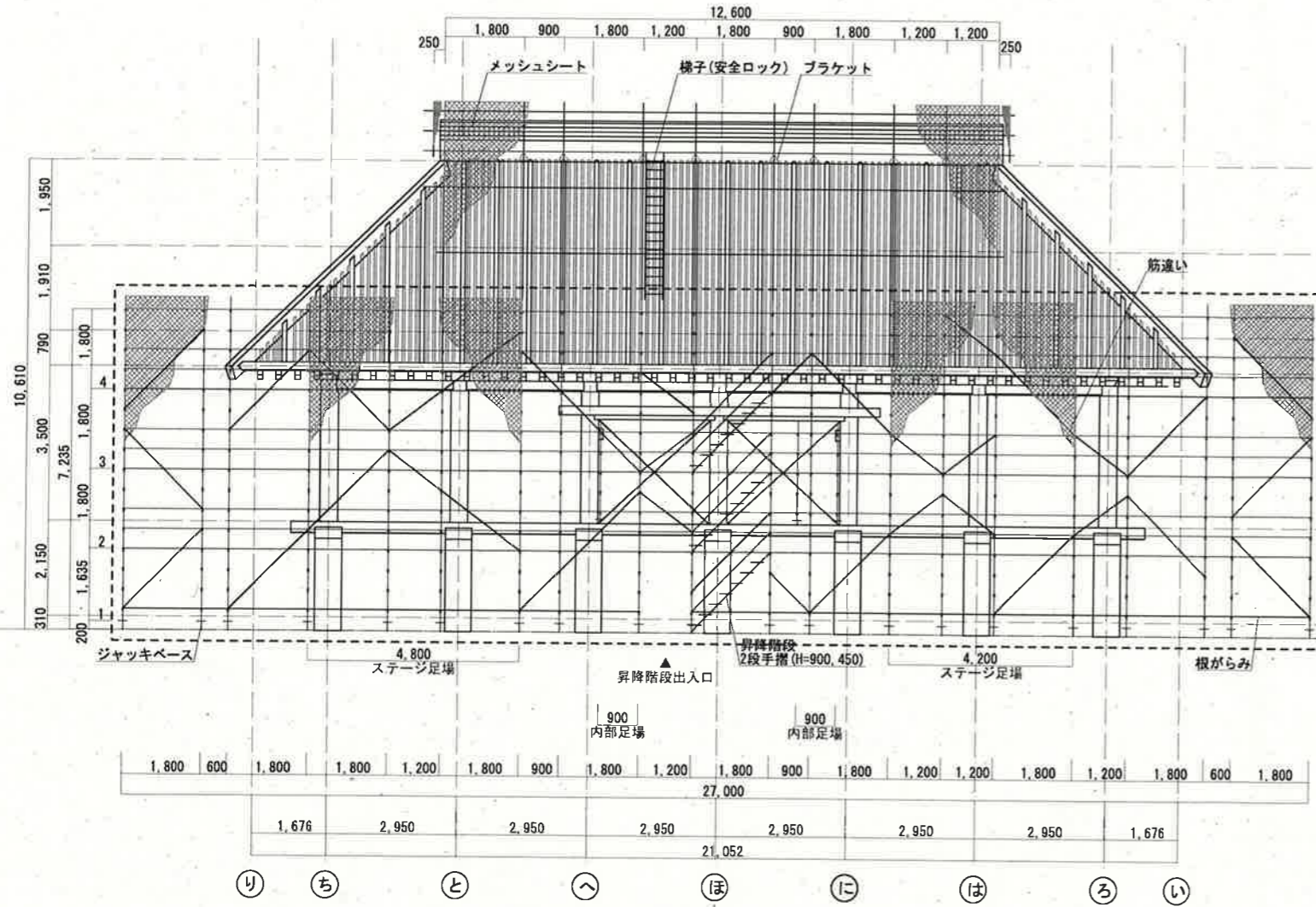
<特記事項>

- ・足場外周はメッシュシート養生とする
- ・クサビ足場の最大積載荷重は(W=600~1200) 200kg/1スパンとする
- ・クサビ足場の最大積載荷重は(W=400) 125kg/1スパンとする
- ・床材と建地との隙間を12cm未満とする
- ・足場板使用部は番線で2箇所以上固定する
- ・作業床が400mm未満の部分は要求性能墜落制止用器具の使用を徹底し、看板を設置する
- ・一側足場部分は要求性能墜落制止用器具を使用する
- ・層間ネット間の上下作業はしないこと
- ・出入口上部には落下防止の為コンパネ養生をする
- ・足場端部はH=450, 900の2段手摺を設置する
- ・足場の建地ピッチは1800mm以内に配置する

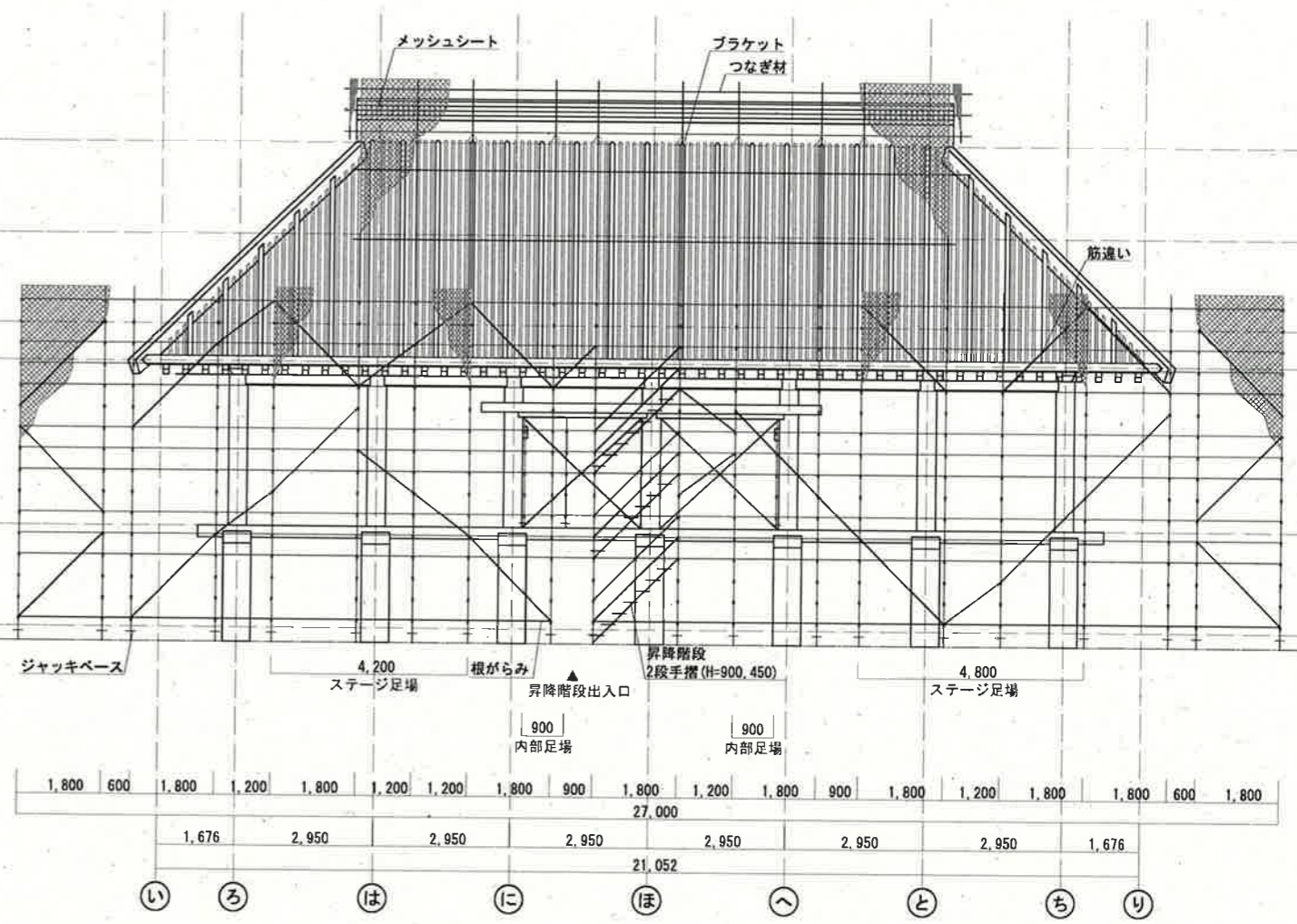


<凡例>

	模足場 外・内側：2段手摺		メッシュシート張り
	昇降階段 階段手摺 H=450・900		
	本工程(令和5年度)の範囲		



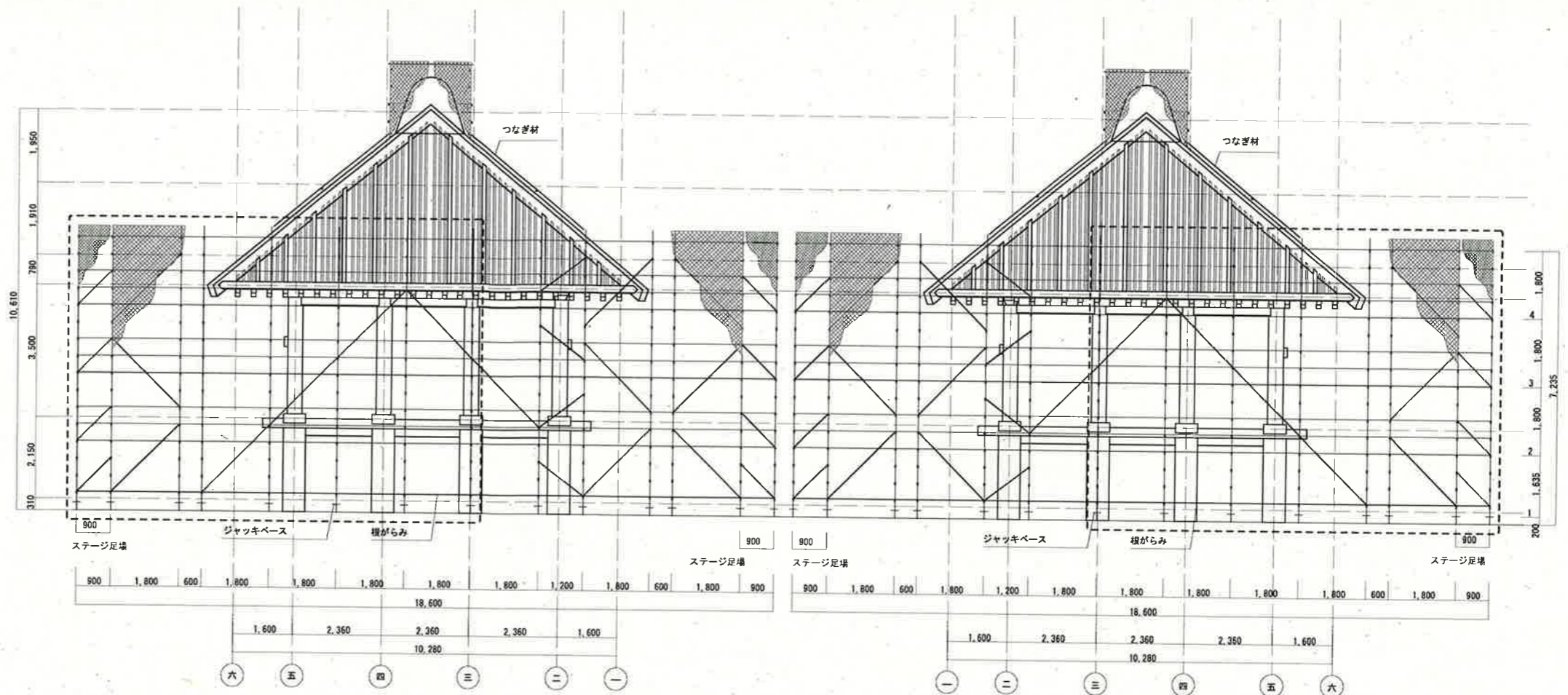
南側立面図



北側立面図

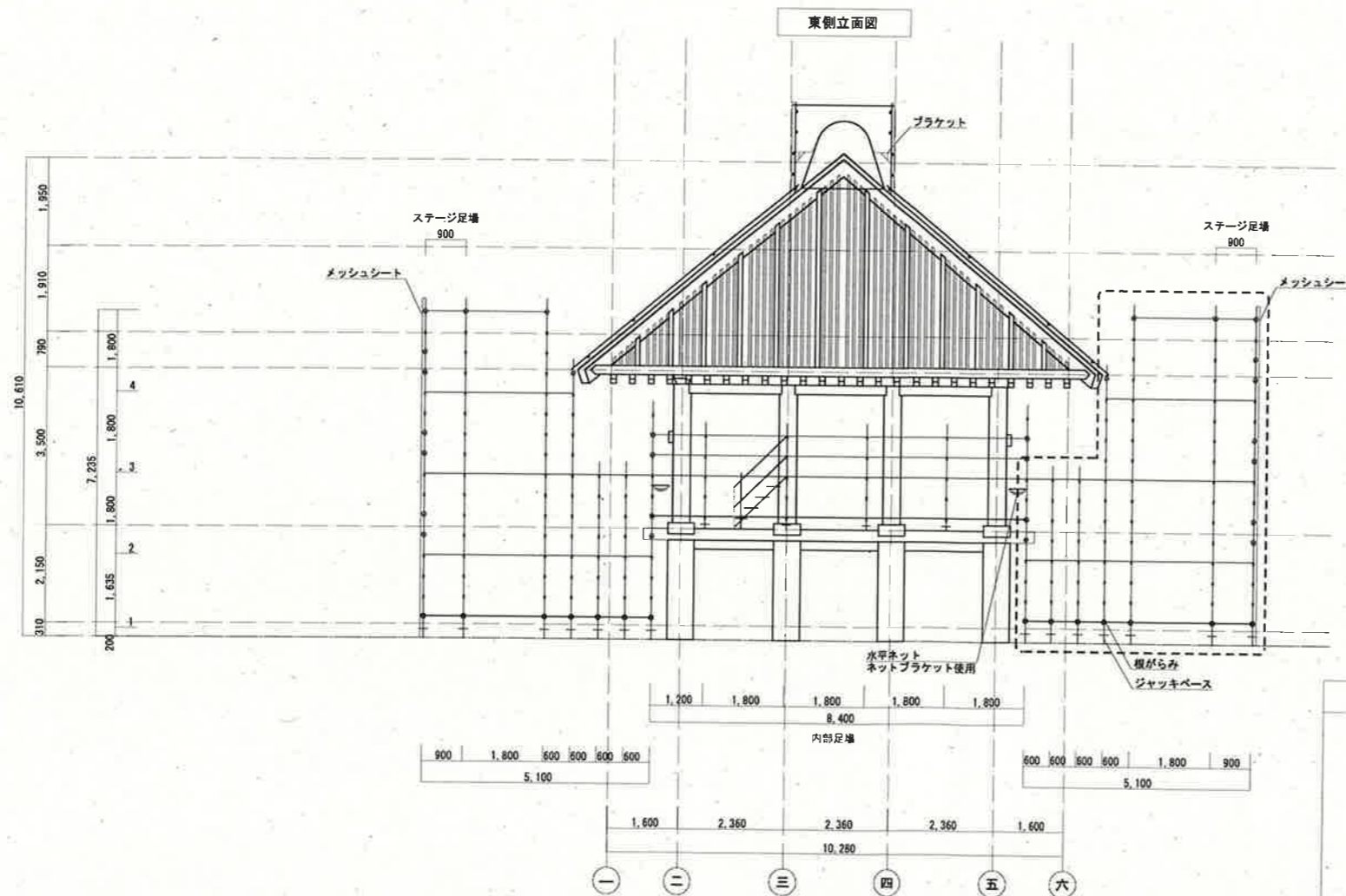
<凡例>

	棟足場 外・内側：2段手摺		メッシュシート張り
	昇降階段 階段手摺 H=450・900		
	本工程(令和5年度)の範囲		



東側立面図

西側立面図



本工程(令和5年度)の範囲一足場面積計算表

部位	場所	計算式		面積	小計
		X	Y		
枠式足場	南	27	7.23	195.21	334.026
	東	9.6	7.23	69.408	
	北	0	0	0	
	西	9.6	7.23	69.408	
屋根足場	南	0	0	0	0
	東	0	0	0	
	北	0	0	0	
	西	0	0	0	
内部足場	南	0	0	0	0
	東	0	0	0	
	北	0	0	0	
	西	0	0	0	

足場面積計算表

部位	場所	計算式		面積	小計
		X	Y		
枠式足場	南	27	7.23	195.21	639.132
	東	17.2	7.23	124.356	
	北	27	7.23	195.21	
	西	17.2	7.23	124.356	
屋根足場	南	27	3.48	93.96	307.632
	東	17.2	3.48	59.856	
	北	27	3.48	93.96	
	西	17.2	3.48	59.856	
内部足場	南	1.8	1.8	3.24	12.96
	東	1.8	1.8	3.24	
	北	1.8	1.8	3.24	
	西	1.8	1.8	3.24	

種別	場所	仕様	数量	本工程	単位
仮設	外部	枠式足場 クサビ式ブラケット本足場	639	334	m
		昇降設備	2	1	箇所
		ステージ	4	2	箇所
		養生メッシュシート 防災2類	639	334	m
		屋根足場 単管1本足場	308	0	m
	内部	枠組仕上足場	13	0	m

工事名

5 国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物
土倉(2号建物)再整備工事

整理番号/建物名

【B2/土倉】

図面名

仮設一足場立面図・断面図

【実施設計】

単位

mm

縮尺

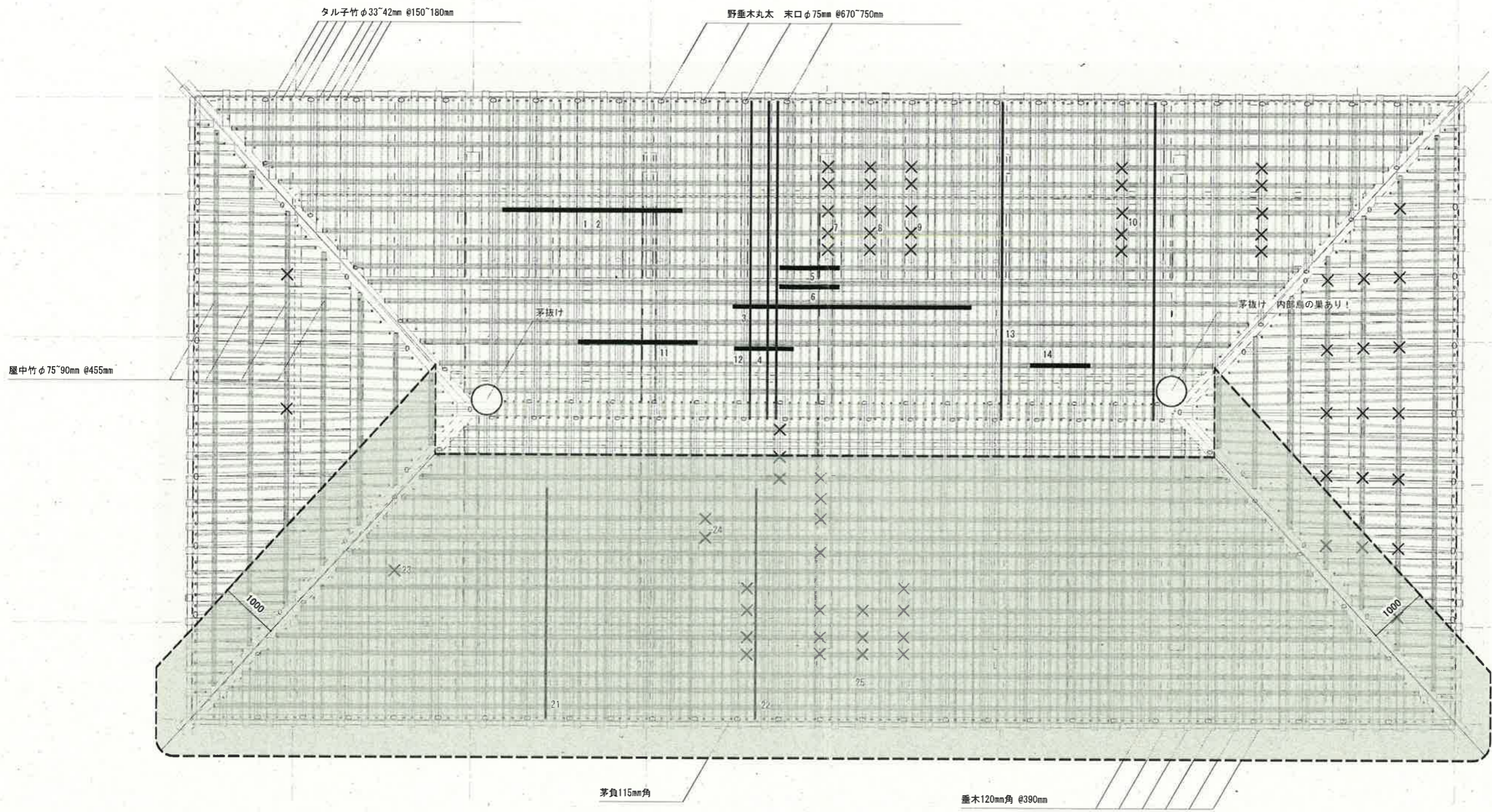
1/100 (A2)

年月日

2023/03/20

番号

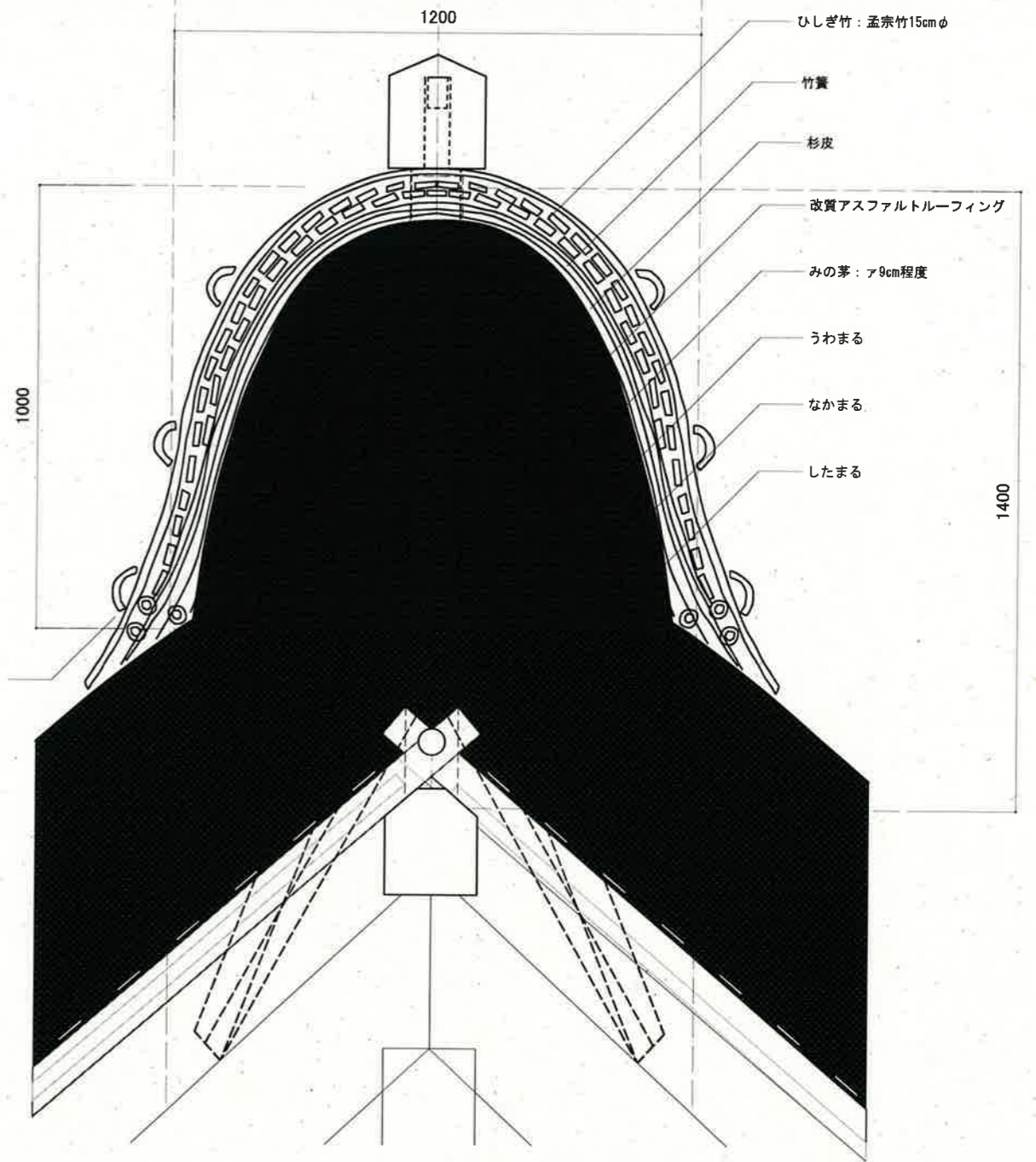
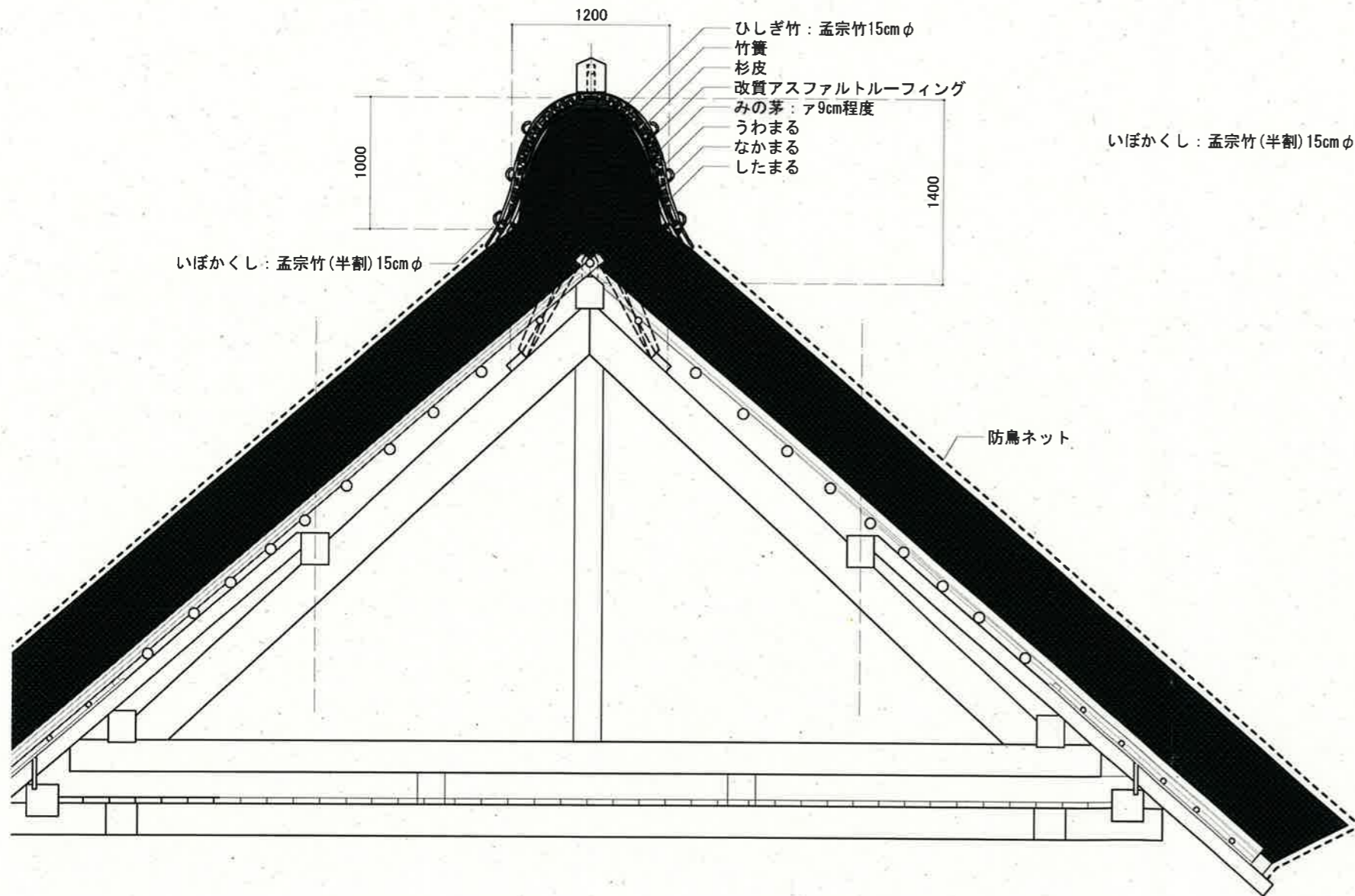
22



- × 屋中竹ゆるみ
- 屋中竹虫食い
- タル子竹虫食い
- 本工事(令和5年度)の範囲

種別	場所	仕様	数量	単位
屋根工事	屋根	茅葺葺替	1	式

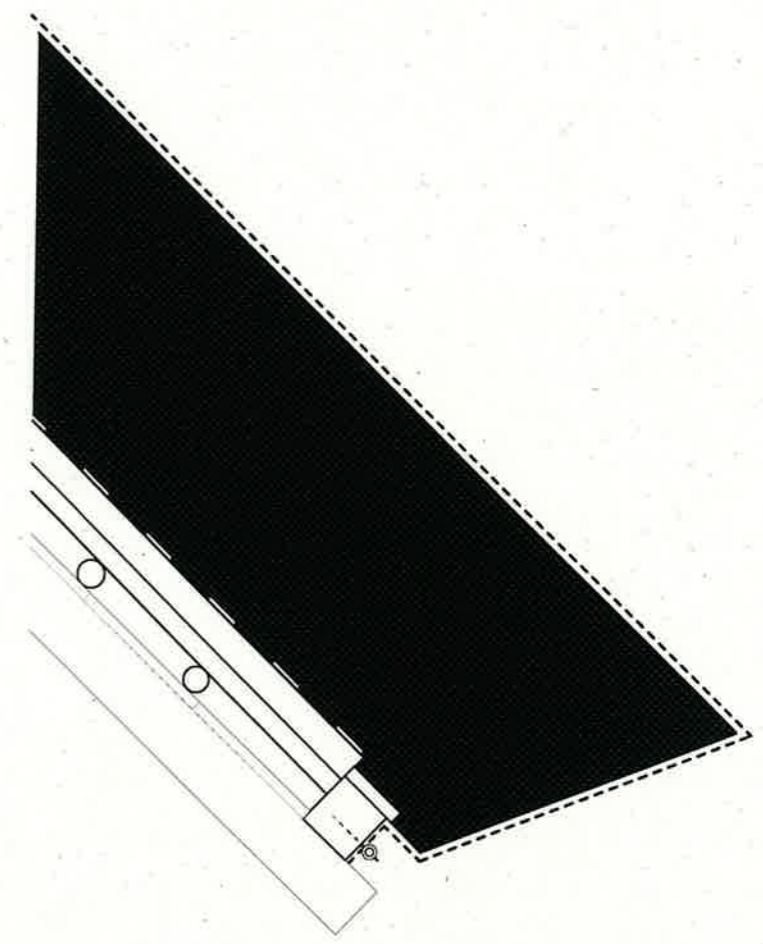
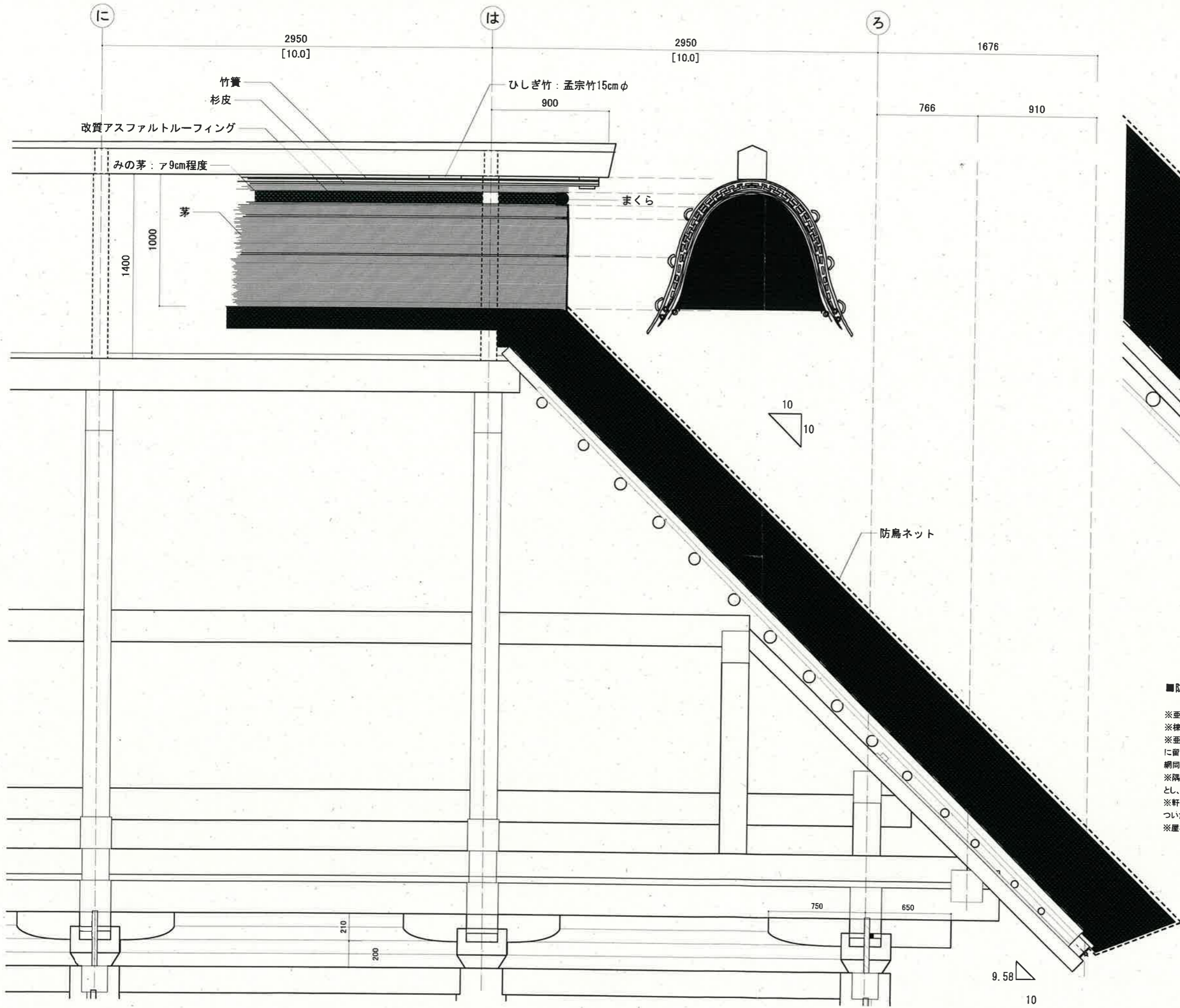
工事名	整理番号/建物名	図面名	【実施設計】	単位	縮尺	年月日	番号
5国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物土倉(2号建物)再整備工事	【B2/土倉】	屋根替一範囲		mm	1/100 (A2)	2023/03/20	23



- ① 下地材
 ヤナ材: 75~90mm φ の秋季伐採の通直な真竹
 タルコ: 40mm φ 内外の秋季伐採の通直な真竹
 エツリ: 40mm φ 内外の秋季伐採の通直な真竹
- ② 葺き材
 長さ1200mm以上の雑物のない秋刈りの良質な茅(ススキ、シマガヤ)
- ③ 押さえ材
 軒口ヒゲ: 40mm φ 内外の秋季伐採の通直な真竹真竹四ツ割
 押シバエ: 20mm φ 内外の秋季伐採の通直な真竹真竹
 差シバエ: "
 押シホコ: 30mm φ 内外の秋季伐採の通直な真竹真竹
 " 10mm φ 内外の雑木丸太
- ④ 棟筋り材
 杉皮: 幅300mm × 長600mm内外の秋季剥きの節穴のないもの
 竹簧: 30~45mm φ 内外の秋季伐採の通直な真竹
 いぼかくし: 150~180mm φ 内外の秋季伐採の通直な孟宗竹
 防水: 改質ゴムアスファルトルーフィング
- ⑤ 結束材
 7.5mm (2分5厘) φ 内外のわら縄
 9mm (3分) φ 内外のわら縄
 6mm (2分) φ 内外のしゆる縄
 18#の鋼線

※材料は可能な限り地元材を用いるものとし、入手にあたっては、監督職員と十分協議するものとする。
 ※修繕箇所および工法については、特記仕様書を参照。

工事名	整理番号/建物名	図面名	【実施設計】	単位	縮尺	年月日	番号
5国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物土倉(2号建物)再整備工事	【B2/土倉】	屋根替一棟(ぐし)詳細図		mm	1/20 (A2)	2023/03/20	24



■防鳥ネット

- ※亜鉛メッキ亀甲金網により棟以外の屋根全面を覆う。
- ※棟際に亜鉛メッキ亀甲金網を強風で飛散しないように、下地に鋼線により緊結する。
- ※亜鉛メッキ亀甲金網ロールを縦に降ろしながらなまし鉄線をU字にして900mm程度間隔に屋根に留めつける。亜鉛メッキ亀甲金網の横の継ぎ目は重ねず突き当てとし、突き当て箇所は金網同士を針金で密に結び留める。
- ※隅棟は屋根の丸みにあわせて金網を設置する。平面の金網との継ぎ目は重ねず突き当てとし、突き当て箇所は金網同士を針金で密に結び留める。
- ※軒も平葺きから続けて金網を覆い、6mmφ程度の亜鉛メッキ鉄線を金網に通し、頭に針金のついたビスによって茅負いに緊結する。
- ※屋根面に沿わせて設置することし、風で揺れ動くことのないように留めつけに留意すること。

工事名	整理番号/建物名	図面名	【実施設計】	単位	縮尺	年月日	番号
5国補文展史跡平沢官衙遺跡実物大復元建物土倉(2号建物)再整備工事	【B2/土倉】	屋根替—防鳥ネット詳細図		mm	1/20 (A2)	2023/03/20	25

5国補平沢官衙遺跡実物大復元建物校倉(1号建物)材木購入内訳書

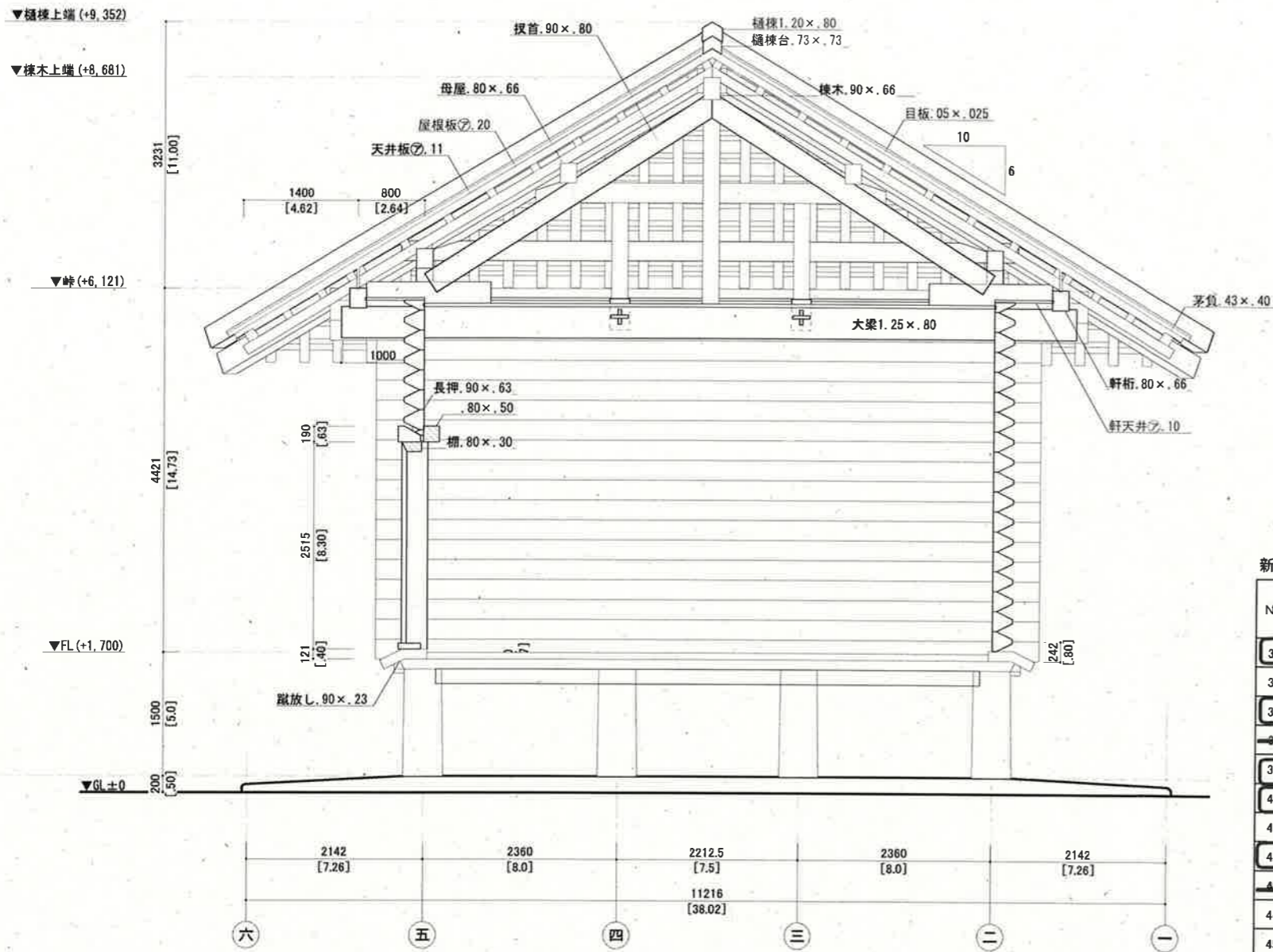
NO	部材名称	材種	等級	注文寸法(仕上げ)(mm)			加工	数量	材積(m ³)		単価(円)	金額(円)	備考
				厚	巾	長さ			単材	材積			
1	32茅負	スギ	上小無地 芯去	140	130	6000	ひき立て	8	0.1092	0.8736			
2	37屋根板	スギ	上小無地(板目) 芯去	60	300	7000	ひき立て	26	0.1260	3.2760			桁は不可
3	39屋根板	スギ	上小無地(板目) 芯去	60	300	6000	ひき立て	20	0.1080	2.1600			桁は不可
4	40屋根板	スギ	上小無地(板目) 芯去	60	300	5000	ひき立て	30	0.0900	2.7000			桁は不可
5	42目板	スギ	上小無地 芯去	80	150	7000	ひき立て	34	0.0840	2.8560			
6	47隅樋棟	スギ	上小無地 芯持	240	270	9500	ひき立て	4	0.6156	2.4624			
7	48樋棟台	スギ	上小無地 芯持	220	220	4000	ひき立て	1	0.1936	0.1936			
8	49樋棟	スギ	上小無地 芯持	240	360	4000	ひき立て	1	0.3456	0.3456			
			小計										
			消費税										
			合計										

※ひき立て(粗木)に製材し納品する。

※ひき立て寸法は、仕上げ寸法+30mm以上とする

<凡例>

赤字	屋根替え範囲を示す
----	-----------



※部材寸法の単位：尺

■解体工事

※解体は手壊しとする。
 ※本図面に示されない継手・仕口が判明した場合は、記録し施工図を作成する。また協議の上、監督職員の指示に従い施工する。
 ※解体した古材は、再利用計画に従い保存するものと処分するものに分ける。
 ※再利用材は、監督職員の指示に従い適切に保管する。

■酸化亜鉛樹脂(モックル液)含浸工事

※屋根替えによる新規調達材は、原則として全て酸化亜鉛樹脂(モックル液)含浸処理をする。
 ※液は表面から10mmの範囲に多く含浸させるため、処理は材の加工・仕上げ後に行う。

新規屋根材リスト

NO	部材名称	材種	等級	注文寸法(仕上げ)			加工	数量	単材積		備考			
				厚	巾	長さ			3/18/19	単材		材積		
32	茅負	スギ	上小 芯去	130	140	6000	プレーナー	8	丁	0.8736	0.1092	0.8736	モックル処理	
33	茅負	スギ	上小 芯去	130	120	4000	プレーナー	1	丁	0.0624	0.0624	0.0624	モックル処理	
37	屋根板	青森ヒバ	上小無地(徑) 芯去	300	60	7000	プレーナー	26	丁	3.276	0.126	3.276	モックル処理	
38	屋根板	青森ヒバ	上小無地(徑) 芯去	300	60	7000	プレーナー	0	丁	0	0.126	0	モックル処理	
39	屋根板	青森ヒバ	上小無地(徑) 芯去	300	60	6000	プレーナー	20	丁	2.16	0.106	2.16	モックル処理	
40	屋根板	青森ヒバ	上小無地(徑) 芯去	300	60	5000	プレーナー	60	丁	5.4	0.09	5.4	モックル処理	
41	屋根板	青森ヒバ	上小無地(徑) 芯去	300	60	4000	プレーナー	68	丁	4.896	0.072	4.896	モックル処理	
42	目板	青森ヒバ	上小 芯去	150	80	7000	プレーナー	34	丁	2.856	0.084	2.856	モックル処理	
43	目板	青森ヒバ	上小 芯去	150	80	7000	プレーナー	0	丁	0	0.084	0	モックル処理	
44	目板	青森ヒバ	上小 芯去	150	80	6000	プレーナー	24	丁	1.728	0.072	1.728	モックル処理	
45	目板	青森ヒバ	上小 芯去	150	80	5000	プレーナー	20	丁	1.2	0.06	1.2	モックル処理	
46	目板	青森ヒバ	上小 芯去	150	80	4000	プレーナー	56	丁	2.688	0.048	2.688	モックル処理	
47	隅礎棟	青森ヒバ	上小 芯持	270	240	9500	プレーナー	4	丁	2.4624	0.6156	2.4624	モックル処理	
※上記材については、粗挽(粗木330×300)→半年乾燥→修正挽														
48	礎棟台	青森ヒバ	上小 芯持	220	220	4000	プレーナー	1	丁	0.1936	0.1936	0.1936	モックル処理	
49	礎棟	青森ヒバ	上小 芯持	360	240	4000	プレーナー	1	丁	0.3456	0.3456	0.3456	モックル処理	
52	軒天井板	スギ	上小 芯去	240	30	3000	プレーナー	48	丁	1.0368	0.0216	1.0368	モックル処理	
※全てモックル処理とする									ページ計		29.1784			
									材積		総合計		29.18	

種別	場所	仕様	数量	単位
屋根工事	既存屋根材	既存解体 手壊し	203.6	m ²
繕工事	新規屋根材	酸化亜鉛樹脂含浸(モックル処理)	29.18	m ²

令和 6 年度以降 史跡平沢官衙遺跡再整備事業

1 令和 6 年度以降計画

・年次計画

令和 6 年度 (2024 年度)	土倉 (2 号建物) の再整備工事の残り、 校倉 (1 号建物) 屋根を中心とした再整備工事、 板倉 (3 号建物) 木材購入 環境再整備工事実施設計委託
令和 7 年度 (2025 年度)	板倉 (3 号建物) 屋根を中心とした再整備工事、 環境再整備工事〔柱位置表示 (Ⅱ期) 〕
令和 8 年度 (2026 年度)	環境再整備工事〔柱位置表示 (Ⅲ期) 〕、説明板、園路整備等〕 ホームページを使用した情報発信

- ・ 基本設計では事業費を各年度で均等となるような年次計画としていたが、今年度事業予算が減少したため、令和 6 年度の内容の増加で対応予定。
- ・ 実物大復元建物の再整備工事費は、実施設計での検討と物価上昇により基本設計から各棟 15~25%増となり、今後も物価上昇による増がありえる。

2 令和 6 年度事業

- ・ 主要な工事など (金額は現時点での概算で、詳細は今後精査)

土倉 (2 号建物) の再整備工事の残り	設計額	34,617,000 円
校倉 (1 号建物) 屋根を中心とした再整備工事	設計額	59,389,000 円
板倉 (3 号建物) 木材購入	設計額	3,120,000 円
造園的工事の実施設計	設計額	6,116,000 円
上記工事の施工監理	設計額	6,094,000 円

- ・ 事業費合計 109,336,000 円

3 令和 6 年度以降の課題

- ・ 令和 6 年度以降の国庫補助金も市の要望に満たない可能性がある。そのため、令和 8 年度完成の計画は変更せず、国庫補助事業以外に起債事業を併せて導入できるよう調整する。
- ・ 基本設計では、造園的整備の中心となる柱位置表示の色やデザイン等の詳細な検討を、令和 6 年度に作成する造園的整備の実施設計での課題として残した。次回懇話会では、工事の現地見学と併せて検討を始める。

令和5年(2023年)3月4日(土)実施

「令和4年度筑波大学社会貢献プロジェクト みんなで考えよう!平沢官衙遺跡の未来」

1. 平沢官衙遺跡と再整備事業説明

2. Part1「平沢官衙遺跡の柱表示を考えよう」

再整備において復元のイメージとしている、Ⅱ期(H30cm×φ35cm、H15cm×φ20cm)・Ⅲ期(H60cm×φ35cm、H30cm×φ20cm)をボール紙で作成し、並べてそれぞれの復元イメージを確認。高さ、材質、色なども検討する。

(1)作業風景



(2)復元イメージ比較(左:Ⅱ期、右:Ⅲ期)



(3)参加者の意見・感想

- ・並べた時に、高さが違うと良い。
- ・高さや色のバリエーションを多くすると分かりづらいので、「色が同じで高さが違う」もしくは「高さをそろえて色を変える」などの統一感があると良いのでは。

- ・柱だけだとイメージが湧きづらい。ARのように、スマホをかざしたら建物も見えるし、色々な角度から見られる、といったようなものがあれば分かりやすく楽しめるのでは
- ・柱の位置を見てわかるように作ることは、意義があるし推察しやすいが、柱の大きさに大小、太さ細さをつけてしまうと「大きい方、太いほうに価値がある」というような、年代ではない価値が勝手に付随してしまわないだろうか。大きさを年代を表す、ということは、見た目で軽重が付きやすい。
- ・今後も、心が落ち着く憩いの場であってほしい。「立派なものを作ろう」というようには思わないような再整備を望みます

3. Part2「オリジナルデザインの柱をつくろう」



カラーのボール紙、折り紙、カラーペン等を使用して各自オリジナルデザインの柱表示を作成する。

4. Part3「意見交換会 平沢官衙遺跡の未来に向けて」



(1)筑波大学芸術系学生(3名)による、平沢官衙遺跡での活用イベント提案【資料4-2参照】

①「やわらかくくぎる」

休日・祝日など限定で、ロープや布を使い「跡のある場所に、柱が建っていた」ことがわかるような空間をつくる。ただ、現在の開放感も大事なので、区切ることはしないようにしたい。

②「当時の影を考える」

講義・意見交換・影絵の制作を通して、ここは何かあった場所なのかを考える機会にしたい。アートイベントとして盛り上げることもできるかと思う。

③「フォトカードの配布」

イベントにともない、フォトカードのノベルティを配布する。想像で書き込んで復元してもらい、SNS などに共有してもらおう。アナログだからこそその記念的な価値やイベント性もあり、また SNS を使用することにより、知名度や認知度向上につながる。

(2) 学生からの活用提案及び今回のワークショップ全体の感想や、再整備への意見

- ・工作をしたり、それを経て自分で考えたりと、とても楽しかった。歴史・観光といった目的だけでなく、憩いの場として再整備してもらいたい。
- ・楽しいだけのイベントではなく、平沢官衙遺跡が、中央の権力や中枢、財力の象徴であったという、歴史的なことも分かる催しはよい。
- ・柱跡を見て、建物を想像できるような仕掛けがあると良いと思う。柱だけではないアイデアも大事。
- ・今まで何気なく石やこういった竹筒を見ていたが、今回参加してこれらが重要、意義のあるものだとなった。こういったイベントがあると、平沢地区にも来る機会が増えてよい。子どもを連れて気軽に遊びに来たい。
- ・毎年こういったワークショップを開いて、1 回目で歴史講座、2 回目でアイデア出しの意見会、3 回目で今回のような実証実験、といった形にできればよいと思う。
- ・柱作りは、授業などでやると子どもも楽しみながら理解が深まると思う。
- ・こういったワークショップが親子で参加できる形で年に数回あるとよい。ただ、子どもは時代を言われても理解しづらいので、例えば講師やスタッフが当時の官人の格好をすとか、形から入るととつきやすいと思う。
- ・周りの自然と合わせて写真映えするので、SNS などでも拡散してもらえれば知るきっかけにもなる。つくば市民でもこの場所を知らない人がたくさんいるので、写真の共有などからも認知度を上げてほしい。
- ・地元の平沢地域の人の言葉で伝えていくことが何よりも大事だと思う。自然や筑波山、緑などをこれからも伝えていきたい。学生さんの提案もとても良いと思うので、地元でも、学生やほかの地域の市民と協力して、市全体で盛り上げていけるようにしたい。
- ・イベントの開催自体が平沢官衙を知るきっかけになった。地元の皆さんとやったからこそ、遺跡の価値がわかる貴重な体験ができた。

意見交換会

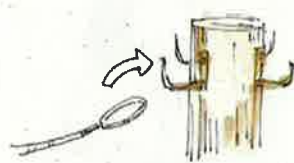
平沢官衙遺跡の未来に向けて



やわらかくくぎる

細い布をいくつか結びつけたロープを
柱間に渡して空間をつくる
布・ロープは土日祝、イベント時などのみ設置を想定

「柱」=「空間」としての意義を残す 開放感を邪魔しない 訪れた人の居場所・遊び場に



柱の四方向に取り付けたフックで
ロープの端をひっかけて固定



ロープをかける場所、布を結ぶ場所は利用者が自由に決める



高さ 1000-1500mm
素材は木質・白木?

利用方法の想定



ピクニックの場所づくり



遊び場づくり



写真スポットづくり

当時の影を考える

01. 概要

平沢官衙遺跡が、今から1000年以上前、実際にお役所として使われていた頃、そこにはどのような人の営みがあったのか、どのような影が見えたのか、考え再現する。

02. 目的

いまだわからないことも多い遺跡について、何があった場所か考える機会とする。また、それに寄って市民が遺跡に対して思い入れを感じたり、新しい価値を見出せるようにする。

03. 内容

- ①この土地の歴史について、軽い講義のようなものを行う。
- ②グループに分かれて、ここにどういう人がいたか、どんな影が見えたか、想像し共有する。
- ③影絵アートを制作する。

例：役所に税を持っていく人の影





柱から知る 想像する

#柱を合わせる クリアフォトカード

使用方法



1. 来場者にノベルティとしてクリアフォトカードを配布する。



2. 元々印刷されている柱のポイントマーカ、大まかな建物のグリッドの上から、各自思い思いの建物の外観を描き込む



3. 柱跡にぴったり合う場所から風景にかざす。SNS等に投稿してもらい、平沢官衙遺跡の認知度を上げる。